



## 臓器提供・ 移植まるわかり

p.2 いのちのリレー

p.3 臓器提供・臓器移植の流れ

p.4 臓器「提供」にかかわる方々  
・臓器提供者ご家族の思い  
臓器「移植」にかかわる方々  
・移植を受けた方の気持ち

救急医からのメッセージ ～東京 2020聖火リレー走者～

本広報紙に関する「ご意見」「ご希望」「ご感想」をお待ちしております。

お便りを下さった方には、粗品を差し上げます。お便りをお待ちしております。  
当財団の情報は HPをご覧ください。<http://www.iba-jinzou.com>  
また、お問い合わせ Eメールは [infoiba@iba-jinzou.com](mailto:infoiba@iba-jinzou.com)です。

いばらき腎臓財団

検索

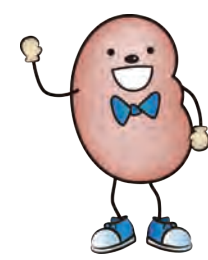
ご協力  
お願い致します!





# いのちのリレー

## 臓器提供・移植まるわかり

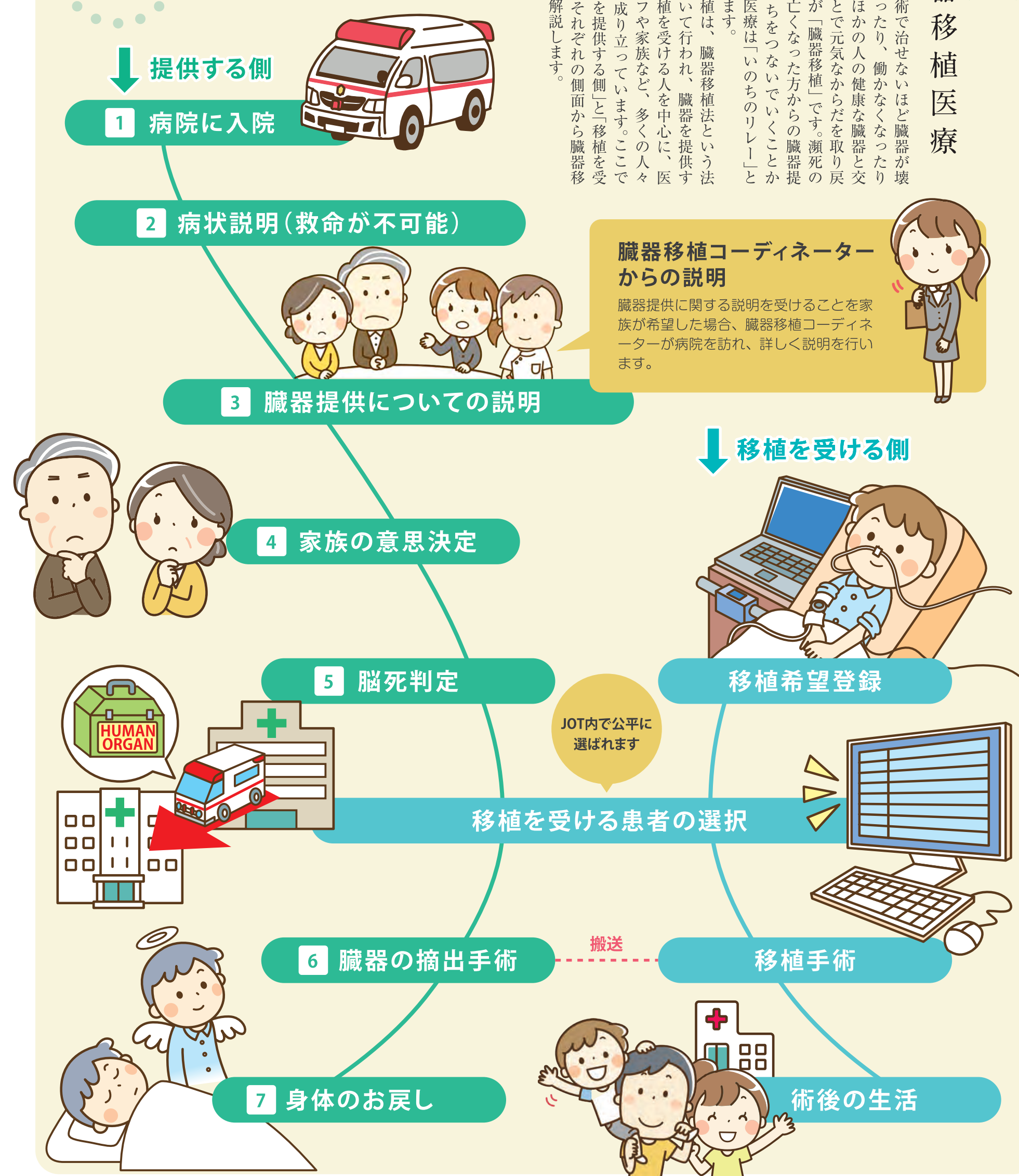


### 臓器移植医療

薬や手術で治せないほど臓器が壊れてしまったり、働かなくなったりした時、ほかの人の健康な臓器と交換することで元気なからだを取り戻す治療法が「臓器移植」です。瀕死の患者が、亡くなった方からの臓器提供でいのちをつないでいくことから、「移植医療は「いのちのリレー」と表現されます。

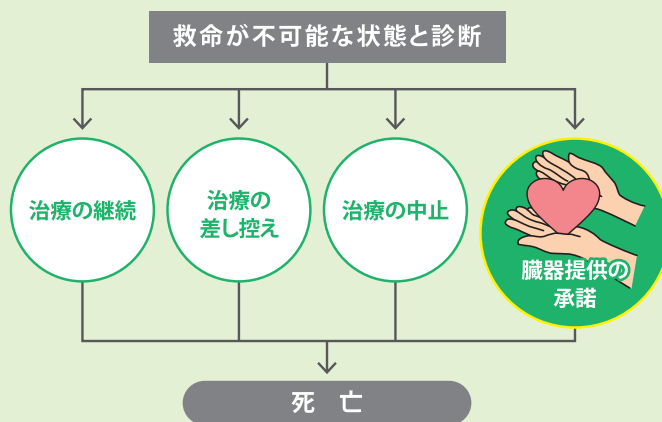
臓器移植は、臓器移植法という法律に基づいて行われ、臓器を提供する人と移植を受ける人を中心に、医療スタッフや家族など、多くの人々によって成り立っています。ここでは、「臓器を提供する側」と「移植を受ける側」、それぞれの側面から臓器移植医療を解説します。

### 臓器提供の流れ



### 3 臓器提供についての説明

主治医等が、患者の状況を「脳死とされうる状態」と診断し、家族に病状説明をする際に、「臓器提供という選択もある」ことを患者家族に伝えます。あるいは、患者家族から主治医に「臓器提供について詳しい説明を聴きたい」と申し出ることもできます。家族が臓器提供について詳しい説明を受けることを希望した場合、主治医からJOTに連絡が入り、JOTが臓器移植コーディネーターを派遣し、臓器提供に関する説明をします。



### 臓器提供という選択肢

事故や病気による脳障害などで入院した人に対して、最善の救命治療を行ったにもかかわらず、回復の可能性がなく、救命が不可能であると診断された場合の終末期の選択肢の一つとして、臓器提供があります。

### 1,2 入院し病状説明

### JOTとは

公益社団法人日本臓器移植ネットワークは、死後に臓器を提供したいという人(ドナー)やその家族の意思を活かし、臓器の移植を希望する人(レシピエント)に最善の方法で臓器が贈られるように橋渡しをする日本唯一の組織です。

### 臓器移植コーディネーターとは

臓器移植コーディネーターは、臓器提供を考えているご家族に必要な説明を行い、提供から移植がスムーズに運ぶよう調整する、「いのちの橋渡し」をすることです。その他、医療機関や一般の方の移植医療への理解を深めるための普及啓発活動も臓器移植コーディネーターにとって大切な仕事です。



### 4 家族の意思決定

家族は、臓器移植コーディネーターから説明を受けた後、十分に話し合い、臓器を提供するかどうかを家族の総意として決めます。提供しないと判断しても不利益な扱いを受けることはありません。

### 5 脳死判定

家族の承諾を踏まえて、法律に基づいた厳格な脳死判定を2回行い、2回目の脳死判定が終了した時刻が死亡時刻となります。家族が希望すれば、脳死判定に立ち会うこともできます。心停止後の臓器の提供では、法律に基づく脳死判定を受けることはありません。

「脳死」、あるいは「心停止」によって、提供できる臓器に違いがあります。心停止後の臓器提供では、心臓が止まった死後、速やかに手術室に向かい、臓器の摘出手術を行います。提供できる臓器は、腎臓、脾臓、眼球です。手術室があり、院内の体制が整備されている病院であれば提供が可能です。

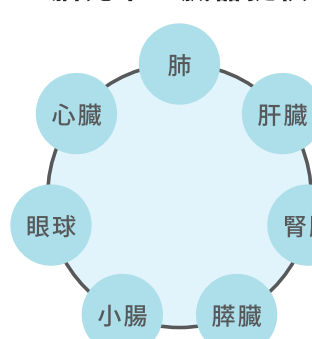
脳死下の臓器提供の場合は、提供するための循環管理が行われ、摘出直前まで血液の流れがあることから、心臓・肺・肝臓・腎臓・脾臓・小腸・眼球の7つの臓器を最大11人に提供することができます。

脳死下の臓器提供ができる医療施設は、高度な医療を行う大学附属病院等に限定されていて、かつ必要な体制が整備されていることが前提となります。

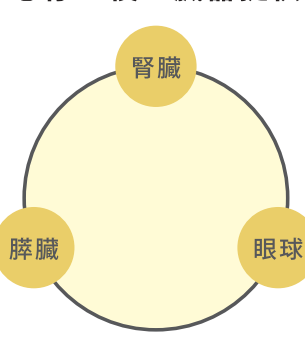
### 6 臓器の摘出手術

法的脳死判定が終わわり、移植希望者が選ばれると、摘出手術が行われます。摘出手術は3〜5時間かかります。摘出された臓器は、移植希望者が待つ移植施設に迅速に運ばれて移植されます。

### 脳死下の臓器提供



### 心停止後の臓器提供



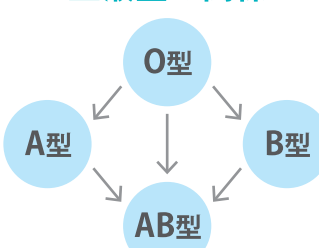
提供できる臓器に違いがあります

### 脳死下と心停止後の臓器提供の違い

### 7 身体のお戻し

摘出後はきれいに縫い合わせ、清潔なガーゼを当て、手術による創(あと)がわからないようにしてお戻しします(眼球提供の際は義眼を入れます)。

### 適合・移植可能な血液型の関係



### 各臓器ごとに医学的条件で選択・決定

- 適合条件●  
血液型、サイズなど
- 優先順位●  
親族、医学的緊急度など

### 移植を受ける患者の選択

JOTに登録している移植希望者の中から、提供される臓器に医学的に最も適した人が公平に選ばれます。

このとき、移植候補者には、意思確認の連絡があり、移植を承諾すると、直ちに入院・移植手術が行われます。

### 臓器移植を受ける患者

臓器移植を受ける人は、移植することでしか有効な治療がない病気の人です。そして、JOTに移植希望者として登録し、移植の機会を待っている人です。



## 臓器提供者ご家族の思い



● 何年も、提供した事が本人の意志に従ったのでよかったのだと自分自身に言いきかせていました。それが数年前レシピエントの方の二人が結婚もされ、お子さんにも恵まれたと知り、提供してよかったですと思える様になりました。

● 何よりも本人の希望でしたから。「誰かの役に立ちたい」といつも言っていました。

● 本人はもう亡くなってしまったが、臓器はいろいろな方の一部となり動き、そしてその方の助けになっていることで、死が生へつながるという前向きな思いを持っているから。そして両親より先に亡くなってしまった命だけれど、臓器はそれぞれの方の体で両親より長く動いて生きていられるから。

● 大きな偉業を成し遂げたとかそんな感じではなく、シンプルに財布が落ちていたら届けるような人として当たり前なささやかな親切ができたと思つてます。

● この10年本当に提供してよかったのか日々考える毎日を送っています。



● 今さら「臓器提供しないほうが良かった…」なんて後悔したくない。子供の意志だから…助かった人がいるのだから…納得するしかない。正直、わからない。

● 臓器提供をしなかったら娘の死を受け入れられなかったと思うから、臓器提供をすると決めて初めて、脳死状態の娘から生命維持装置を外す決断が出来たと思う。

出典：日本臓器移植ネットワークドナー家族への意識調査「臓器提供に関するアンケート調査」第53回厚生労働省臓器移植委員会参考資料1-2. 2021/4/21 より一部抜粋

救急医からのメッセージ  
〜東京2020聖火リレー走者〜

私は、日頃医療従事者としてコロナ禍でも多くの患者さんを見てきました。その中で、臓器提供の院内コーディネーターとしても活動しております。

コロナ禍においても臓器提供の希望があれば待つている患者さんのために尽力してきました。臓器提供はまさに「命のリレー」です。聖火リレーのコンセプトである「希望の道をつなごう」、臓器を待つている患者さんからすれば、臓器提供は唯一の生きる希望の道です。しかし、改正臓器移植法から11年、臓器を待つている患者さんは増える一方ですが、臓器を提供してもいいという患者さんはほとんど増えておりません。そして、最期を迎える患者さんの半数は何らかの臓器の提供が可能です。

待つている患者さんに生きる希望の道をつなぐために、是非皆様に、命の最期をどう迎えたか提供の意思を含めて家族に伝えていただけたら、家族ももしもの時は意思があれば医療者に伝えていただけたら、そして医療者も意思を必ず確認し命のリレーをつなげられるように取り組んでいただけだと思つています。今回聖火リレーを通じて、命のリレーを伝えていけたらと思つています。何卒宜しくお願い致します。



出典：筑波大学附属病院 救急・集中治療部 小山泰明先生

## 移植を受けた方の気持ち

## 臓器「移植」にかかわる方々

私は生死に関わるような経験をしたから、生きていることが当たり前ではないと思えることができていますが、当たり前前のことを考えるのが一番難しいのではないかと思つています。つらい病気と闘ってきたからこそ、何気ない生活のすべてが輝いて見えました。「あと何年生きられるか分からないから、その何年かを全力で生きて、最後には後悔しないようにしたい」そんな風に物事に対する価値観が変わり、前向きに過ごすようになりました。

ドナーの方には感謝という言葉では表せないくらい思いです。ドナーのご家族の決断に感謝を受けました。いのちをつないでいただいた私が今生きているからこそできることは、このいのちを次のいのちにつなげていくことです。第二のいのちを頂けたことに感謝し、ドナーの方と共に夢に向かって頑張つていきます。



出典：日本臓器移植ネットワーク 小冊子 think transplant Vol.45肝臓移植経験者の手記 より一部抜粋

## 移植医からの

## メッセージ

高橋一広先生

筑波大学医学医療系  
消化器外科・臓器移植外科学 講師

現在、日本では約1万4000人の末期臓器不全患者が臓器移植を待つています。一方で、臓器提供者数は100人前後であり、多くの患者が待機中に亡くなっています。SNSなどにより、臓



器提供に対する理解が徐々に広がっていると感じていますが、茨城県での提供数は全国的にみると少ないのが現状です。臓器提供についての理解が皆様に広がり、一人でも多くの末期臓器不全で苦しむ患者を救えることを期待しています。